

講義名	小売業感論		
科目区分	学科専門 選択必修		
担当教員	新 雅史		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

私たちは、日々さまざまなモノやサービスを購入していますが、たとえば食材ひとつとっても、さまざまな方法で入手することができます。八百屋や肉屋のような専門店で購入する方法、百貨店のような高級食材を扱っている場所で購入する方法、あるいはスーパーマーケットのような総合店で購入する方法、あるいは産地からのネット購入という方法もこれから増えてくるでしょう。販売方法が変われば、当然、そこで提供される顧客価値も異なってきます。こうした販売方法の違いは、どのような顧客に、どの程度の付加価値のある商品を、どのように提供するのか、という「小売業感」という概念から整理することができます。この授業では、日本の流通企業がそれぞれの時代の課題に対応して、どのような小売業感を展開してきたかを、具体的なケースから丁寧に学んでいきます。

到達目標

- ・小売業感という概念を正確に理解する
- ・日本の主要な小売業感の変遷と現状を理解する
- ・有力な小売企業の事例を小売業感という概念から理解する

提出課題

- ・簡易なレポート、小テストなどを授業時間内におこなうことがあります

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

- ・簡易なレポートや小テストについては講義内でフィードバックをおこなうほか、レスポンのツールのツールも積極的にもちいる

評価の基準

授業の感想と質問を記すレスポンの提出を30%、学期末テストを70%にて、学習の到達度を評価します。毎回のレスポンの内容が優れている場合は、加点をおこないます。

履修にあたっての注意・助言他

- ・1回目のをそいて授業で取り上げる章を事前にアナウンスするので、授業前に教科書をしっかりと読みこみ、積極的に授業に参加してほしい。

教科書	.1からの流通システム、	崔相鐵・岸本徹也（編著）	碩学舎	2640	978-4-502-26191-6
-----	--------------	--------------	-----	------	-------------------

プリント資料及び参考文献

新雅史、2012『商店街はなぜ滅びるのか』光文社新書
 石原武政・竹村正明・細井謙一編著、2018『1からの流通論（第2版）』碩学舎
 石原武政編著、2018『小売業起点のまちづくり』碩学舎
 など

授業計画

- 第1回：ガイダンス：「小売業感」の意味を考える
- 第2回：小売業感はどのように歴史的に変化したか
- 第3回：小売業感として商店街を考える
- 第4回：呉服店はどのように百貨店に生まれ変わったか
- 第5回：なぜ関西の電鉄はターミナル型百貨店をつくったか
- 第6回：なぜ「流通革命」は必要だったのか
- 第7回：主婦が求めたスーパーマーケット
- 第8回：グローバル化する総合スーパーマーケット
- 第9回：巨大化する専門店—家電専門店を例にとる
- 第10回：衣料専門店から考える製造小売業（SPA）
- 第11回：家具専門店から考える製造小売業（SPA）
- 第12回：薬局はいかにドラッグストアに生まれ変わったのか
- 第13回：どのように安く売るのが—ディスカウントストアと均一価格店
- 第14回：インターネット上につくられる「モール」とは何か
- 第15回：地域の生き残りをかけた小売業起点のまちづくり

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/>	ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="checkbox"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/>	ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	エ：グループワーク
<input type="checkbox"/>	オ：プレゼンテーション
<input type="checkbox"/>	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・各回の教科書の予習：各1時間×14回=14時間
- ・各回の講義内容の復習：各30分×15回=7時間30分
- ・期末試験の準備：4時間30分

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポンのアンケート機能をもちいて双方向性をもった授業をこころがける

実務経験の有無及び活用

備考